

2021年8月22日 午前礼拝 説教者:堺希望兄
「ここに愛がある」

I ヨハネ 2:1-2

- 1 私の子どもたち。私がこれらのことを書き送るのは、あなたがたが罪を犯さないようになるためです。もしだれかが罪を犯したなら、私たちには、御父の御前で弁護して下さる方があります。それは、義なるイエス・キリストです。
- 2 この方こそ、私たちの罪のための、——私たちの罪だけでなく全世界のための、——なだめの供え物なのです。

「私の子どもたち。私がこれらのことを書き送るのは、あなたがたが罪を犯さないようになるためです。もしだれかが罪を犯すことがあれば、私たちには、御父の前で弁護する方がいます。義なるイエス・キリストです。この方こそ、私たちの罪のための——私たちの罪だけでなく、世全体のための——なだめの供え物なのです。」(I ヨハネ 2:1-2)

先月の末に、「光の中を歩むために」という題で 1:1-10 を見ました。そこでは、イエス様を通して天の神様と親しい関係を持つために、イエス様と三年半ともに過ごしたヨハネがこの手紙を書いたということでした。耳で聞き、目で見て、手でさわるような近い関係になる時、「私たちの喜びが全きもの」(完全)になるのです。それが、信じた者が今持つことのできる「永遠のいのち」の性質です。

神様と近い関係となるには、第一に心に裏表がないことが求められます。口でいう事と心の中が矛盾しているとき、神様のいる光の中を歩んではいません。闇の中にいるのです。神様が人に求めておられるのは、綺麗であることではなく、罪をまっすぐに認めることができる正直さなのです。罪を認めることは、「自分はどうしようもない人間だ」と認めることになります。どうしようもない者を救うために、イエス様は死んでくださったのです。

それらのことに続いて、2:1 はこのように始まります。

「私の子どもたち。私がこれらのことを書き送るのは、あなたがたが罪を犯さないようになるためです。」

この出だしは、とても不思議だと思いませんか？ 今までヨハネは、「罪を犯さない努力」や「きれいさ」ではなく、「罪を正直に認める」ことを神様が求めておられると語っていました。ところが、その目的は「罪を犯さないようになるため」と言います。罪を犯していたなら、どうして正直に認めることが、罪を犯さなくなることに繋がるのでしょうか。

それは例えるなら、親の前ではいい子に見えるように振る舞いながら、陰では親のお金を盗んだり、いじめをしていた子が、「自分は悪いことをしました」と親の前で正直

に言うようなことです。

その秘訣は、1 節の後半にあります。「もしだれかが罪を犯すことがあれば、私たちには、御父の前で弁護する方がいます。義なるイエス・キリストです。」

それは「弁護」してくださる方がおられるということ。ここでは法廷が想定されています。裁判の場です。父なる神様が裁判官、私たちが被告席、そして、イエス・キリストが弁護人です。私たちの罪状は、父なる神様に対する裏切り、「罪」です。人の心の中を隅々まで知っておられる神様は、私たちの動機や方法などすべて知っておられるうえで私たちに言います。「あなたは確かに罪を犯した。有罪だ」と。しかし、そこで弁護人のイエス様が立ち上がって弁護を始めます。

普通の裁判と違うのは、普通の裁判では弁護人というのは、被告が実は罪を犯していないとか、犯したのにも同情できる理由があったとか、そのように「被告人のいいところ」を捜して裁判官の心証を良くします。しかし心を見抜いておられる神様の前では、私たちは情状酌量の余地はないのです。

ではイエス様はどのように私たちに弁護してくださるのでしょうか。それはこのようにです。「裁判官。彼は言い逃れできない有罪だ。しかし、私は罪を犯していないので、彼の受けるはずだった罰を私が受ける。そして私の無罪を彼に上げてくれ」と。

イエス様が私たちのために弁護してくださるとき、それは私たちが正しいからとか、同情の余地があるからではありません。ただ、イエス様に罪がないからです。そして、その無罪を十字架の上で私たちに下さいました。

私たちが正しいからではなく、イエス様が正しいから私たちの罪が赦される。それは少しイメージがしづらいかもしれません。このことを、鮮明に現わしているのはイエス様の弟子のペテロとユダだと私は思います。

イエス様が逮捕される夜、イエス様は弟子たちに「あなたがたはわたしのゆえにつまづく」と言われます。イエス様に失望してついてこれなくなるという意味です。それに対してペテロは、「たとい全部の者があなたのゆえにつまづいても、私は決してつまづきません」(マタイ 26:33)と答えます。「他の人はイエス様を見捨てるかもしれないが、私だけは見捨てない。ついていく」と言うのです。大変熱心でまっすぐな弟子でした。

そしてご存知の通り、イエス様が逮捕されて、こっそりその後をつけ、イエス様を死刑にしようとする裁判が行われているすぐ外までペテロは来ていました。しかし、3度イエス様を知らないと言ってしまうんですね。

「しばらくすると、そのあたりに立っている人々がペテロに近寄って来て、『確かに、あなたもあの仲間だ。ことばのなまりではっきりわかる』と言った。すると彼は、『そんな人は知らない』と言って、のろいをかけて誓い始めた。するとすぐに、鶏が鳴いた。そこでペテロは、『鶏が鳴く前に三度、あなたは、わたしを知らないと言います』とイ

イエスの言われたあのことを思い出した。そうして、彼は出て行って、激しく泣いた。」
(マタイ 26:73~75)

ここでペテロが言った「知らない」という言葉は、「そんな人とは交わりはない。私とは一切関係のない人だ」という意味です。ペテロは、あれだけ愛していたはずのイエス様を裏切り、自分の保身のために一切拒絶してしまうのです。

ユダという弟子もまた、イエス様を裏切ります。恐らく、イエス様が自分が思っていた力強い救い主ではなく、誰よりも低くなられるお方であったので、自分の期待した通りではなかったので失望したのです。そして、イエス様を殺したい人々に売り渡す者となりました。

「そのとき、イエスを売ったユダは、イエスが罪に定められたのを知って後悔し、銀貨三十枚を、祭司長、長老たちに返して、『私は罪を犯した。罪のない人の血を売ったりして』と言った。しかし、彼らは、『私たちの知ったことか。自分で始末することだ』と言った。それで、彼は銀貨を神殿に投げ込んで立ち去った。そして、外に出て行って、首をつった。」(マタイ 27:3-5)

ユダは最期、自殺しました。それはイエス様を売った自分に失望したからです。「私は罪のない人を売り飛ばすような人間だったのか」とショックの中、自分を信じることができずに首を吊りました。

一方、ペテロはどうなったでしょうか。

「イエスは三度ペテロに言われた。『ヨハネの子シモン。あなたはわたしを愛しますか。』ペテロは、イエスが三度『あなたはわたしを愛しますか』と言われたので、心を痛めてイエスに言った。『主よ。あなたはいつさいのことをご存じです。あなたは、私があなたを愛することを知っておいでになります。』イエスは彼に言われた。『わたしの羊を飼いなさい。』(ヨハネ 21:17)

復活されたあと、イエス様はペテロと個人的に対話をされました。そして「わたしを愛するか」と問います。かつてのペテロだったら、「他の人が愛さなくても私は誰よりもあなたを愛します」と熱心に答えたでしょう。しかし今、ペテロは「私があなたを愛することを知っておいでになります」と答えるのです。イエス様を裏切ってしまったペテロは、自分がどれほど愛の無い者なのかを知っています。ユダと同じように自分に失望しました。

しかし、その後が違ったのです。ユダは自分を信じられなくなり死を選びました。ペテロは、自分を信じられなくなった代わりに、神を信じたのです。ペテロが言ったのは、「私はイエス様を裏切るような人間です。愛し切れない罪人です。しかし、ちっぽけで不完全だけれどもイエス様をそれでも愛していることは、私が主張しなくても、神であるあなたが知っておられます」。

このペテロを、イエス様は最初の教会の指導者として立てられるのです。ペテロは、本当の赦しをいただいたから、神様のお働きができるようになったのです。

「この方こそ、私たちの罪のための——私たちの罪だけでなく、世全体のための——なだめの供え物なのです。」(Iヨハネ 2:2)

この、私たちが正しいからではなく、イエス様が正しいから弁護し罪を赦してくださいというの、ペテロだけではありません。私たちもそうです。私たちもペテロも、ユダも神様から見れば同じ罪人です。みな、永遠の地獄に行くはずでした。しかし、神様はイエス様を送ってくださり、私たちの身代わりとしてくださいました。

「私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、なだめの供え物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです。」(Iヨハネ 4:10)

どんなに罪深い人であっても、イエス様を信じる人を、神様はイエス様を見るように愛してくださいます。それが愛です。私たちの力やきれいさがまったくないのに、愛される価値がない者を愛してくださるのです。イエス様を裏切ったペテロは赦されました。開きませんがイエス様を十字架につけた人も赦されました。私たちも同じです。私たちがどんなに救いようのない人間だったとしても、「こんな自分、生きてるより死んだ方がましだ」としか思えなくても、神様だけは変わらない愛で愛してくださいます。

ですから知っていてください。もしイエス様を自分のために死んでくださり、よみがえられた救い主だと信じるなら、どんな人でも罪は赦され、その時から神様との消えない愛の関係が始まります。そして、信じた者に対しても、イエス様の赦しは変わらず続いています。もし今負い目や、「こんな私が赦されるのだろうか。愛されるのだろうか」と思っておられる方がおられましたら、どうぞイエス様のところに行きましょう。イエス様の愛は、私たちが愛する前にいのちを捨てて愛してくださる究極の愛です。

最後に、冒頭で語りましたが、なぜ罪を素直に認めることによって罪を犯さなくなるのでしょうか。答えは、神様が赦してくださることをもっと知ることができるからです。

今まで言えなかった自分の悪かったことを、勇気を出して親に言えた子供がいたとします。こどもは、「本当に赦してもらえるのかな。ここまでの悪いことした自分は赦されないんじゃないかな」と不安です。しかし、親がそれを受け止めて、本当にきれいさっぱり赦してくれてぎゅっと抱きしめてくれたなら、子どもは安心して、もっと親のことを信頼できるのではないのでしょうか。そして、「お父さん、お母さんを悲しませたくないから、もうしたくない」と心が変わっていくのです。

私たちも、赦されることは恵みです。赦される経験をすることで神様との信頼関係が増し加えられます。そして、「しちゃだめだから」ではなく、「したくないから」罪を犯さなくなっていくのです。今抱えておられるものを、ぜひ今日、神様の前に素直に打ち明けてみてはいかがでしょうか。